

# 2023年度事業報告書

公益財団法人科学技術広報財団

## I. 全体運営について

### 1. 理事会の開催

- (1) 第36回理事会(2023年6月7日)
- ・2022年度事業報告書及び決算報告書について提案し、承認した。
  - ・第14回評議員会の招集について承認した。
  - ・代表理事および常務理事より職務執行状況を報告した。
- (2) 第37回理事会(2024年3月13日)
- ・2024年度事業計画書及び収支予算書について提案し、承認した。
  - ・代表理事および常務理事より職務執行状況を報告した。

### 2. 評議員会の開催

第14回評議員会(2023年6月30日)

- ・2022年度事業報告書及び決算報告書について提案し、承認された。

### 3. 役員・評議員及び職員の状況

- (1) 役員の現状(2024年3月31日現在)

役職	定数	現員
代表理事	1人	1人
常務理事	2人以内	1人
理事	5以上12人以内	8人(代表理事、常務理事含む)
監事	3人以内	2人

- (2) 評議員の現状(2024年3月31日現在)

定数	現員
5人以上12人以内	6人

- (3) 職員の現状(2024年3月31日現在)

事業所	職員数
本部事務局(出向者を含む)	6人
新潟県立自然科学館	11人
神戸市立青少年科学館	4人
ふなばし三番瀬環境学習館	10人
計	31人

- (4) 役員の異動

なし

- (5) 評議員の異動

なし

## II. 公益目的事業について

### 1. 科学技術広報に関する調査研究及び刊行物等の編集及び頒布

- (1) 科学ポスターの企画・作成及び頒布

- ・『宇宙図2018』および『太陽系図2014』について、最新情報へとリニューアルし、2024年3月にそれぞれ『宇宙図2024』『太陽系図2024』として再リリースした。

- ・A2判が中心だったサイズ展開を全てのポスターでA1判とA2判をリリースし、元素周期表についてはA3判の発行も開始した。また、過去に取り扱いを終了していたポスターも再リリースし、サイズ展開も含めた取り扱い点数を18から53に増やした。
- ・年間の有償頒布数は前年度の15,851枚から13,478枚に減少した。コロナ禍以降、科学館内ミュージアムショップ、書店、大学生協等の取り扱いには減少傾向にあることから、頒布方法の軸をAmazon経由にシフトしている。その結果、Amazonを通じた頒布枚数は、前年度の4,796枚から6,459枚へと増加した。

## (2) ニホニウム関連広報物の頒布支援

ニホニウムの認知度向上を目的として、理化学研究所と連携し、インターネットを通じて理化学研究所制作のニホニウム関連広報物の有償頒布を支援した。

## (3) 科学技術広報に関する刊行物等の頒布

- ・国立天文台編集『科学プロデューサー入門講座』、日本サイエンスコミュニケーション協会誌『サイエンスコミュニケーション13』(No. 1、No. 2)の有償頒布を行った。

## 2. 科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成

### (1) 科学館の運営

#### ①新潟県立自然科学館

- ・一般社団法人CSV開発機構、株式会社コングレとの共同事業体による指定管理事業で、期間は2020年4月から2027年3月までの7年間。

- ・春季特別展「ポケモン化石博物館」を開催した。これまでの春季特別展はGWまでの開催であったが、本展は多くの集客を見込めることから、会期の終了を6月末に設定し開催した。開催期間を長くしたことで来場者を分散させることにも成功し、会期全般に渡って非常に多くの方に来場していただくことができた。ポケモンと現実世界の化石を比較するという、これまでにない視点からの展示であったため、ポケモンおよび化石それぞれのファンを惹きつけることができた。また、ポケモンが幅広い年齢層に支持されていることから、当館ではあまり見られない大人だけの来場も数多く見られた。また、自主事業として、ミュージアムショップとは別の場所に、ポケモングッズ販売会場を特別に設置し、こちらも非常に好評で、多くの来場者にご利用いただくことができた。

- ・7月15日から9月3日まで、夏季特別展「Little Planet in 新潟 2023」を開催した。「遊びが学びに変わる」をコンセプトにした次世代デジタルパークであり、未就学児から小学校低学年をターゲットとした内容のため、今回は3歳以上を有料として開催した。新潟ではこうしたデジタルコンテンツに触れる機会が少ないため、有料にもかかわらず未就学児を持つ保護者が親子で多数来場した。

- ・屋外展示場の大規模な改修工事を行った。老朽化により使用を停止したりしていた「太陽の城」「多翼型揚水風車」「ダリウス型風車」「太陽炉」を撤去し、新たに「次世代循環型農業体験施設」を整備。子どもたちの科学技術や地域産業、環境に関する興味関心を養い、次代を担う地域人材を育成するために、IT×農業をテーマに従来の農業とデジタル技術を活用したスマート農業を体験することができる。なお、この改修工事はデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業であり、新潟県からの要請で新潟県立自然科学館(主に当財団とCSV開発機構のスタッフ)が構想に携わり、採択後、指定管理事業とは別に自主事業として新潟県から実装を受託した。

- ・1981年の開館から交換されていなかったプラネタリウムの座席の交換を行った。座席の

横幅、前後の空間が少しずつ広がったため、席数が204席から168席（公表は150席）へ減少したが、快適に過ごせる座席になった。また、ヒアリンググループ（聴覚障害者向けの音声補助システム）の導入や階段のスロープ化といった、バリアフリーに配慮した改修も行った。これら改修工事は自主事業として新潟県より受託したものである。

- ・2023年度の来館者数は235,094人であった。

## ②神戸市立青少年科学館

- ・株式会社コングレ、株式会社NTTファシリティーズとの共同事業体による指定管理事業であったが、2024年3月末をもって終了した。

- ・ゴールデンウィーク期間に企画展「大空に舞え！紙飛行機展」を開催した。日本紙飛行機協会、JAXA、MRO JAPAN、誠文堂新光社、立命館大学の協力を得て、紙飛行機の父・二宮康明氏作の紙飛行機コレクションをはじめ飛行機の歴史・飛行のメカニズム、未来の飛行機など幅広い展示を行った。併せて子供たちに実際に紙飛行機を作って飛ばしてもらい、大空への関心呼び起こす好機となった。地元のテレビ局、新聞社等の取材もあり、5,000人を超える来場があった。

- ・夏休み期間に特別展「神戸の海のフシギをさぐれ！」を企画制作、実施した。「大阪湾の自然史と海事」をテーマに、大阪湾で見つかる化石や古地図等の展示を通して瀬戸内地域の地球史を紹介。「ちりめんモンスターを探せ」「海洋ゴミすくい」等の参加・体験イベントも行った。また関連イベントとして、ふなばし三番瀬環境学習館とオンラインライブ中継による「くらべてみよう あさせの生き物 東京湾と大阪湾」を開催。当財団が運営する科学館を結んだ初の試みであった。

- ・2023年度の来館者数は約42万人であった。

## ③ふなばし三番瀬環境学習館

- ・公益財団法人船橋市公園協会との共同事業体による指定管理事業で、期間は2023年4月から2028年3月の5年間。

- ・施設直前に広がる三番瀬干潟を利用した環境学習プログラムの実施、及びワークショップ、特別展、企画展を企画制作・実施した。

- ・市の主催事業「ふなばしエコカレッジ」では、三番瀬干潟及び船橋市内の低地、台地の自然観察ワークショップにフィールドワーク講師として協力した。

- ・夏期特別展として「さいきょう妖怪サバイバル」を、秋冬の企画展として「知っておけばこわくない・このへんの毒展」をそれぞれ企画制作し、実施した。

- ・常設展示「いち・に・さんばんぜ」において、ゴボプロジェクターによる新しい展示手法を提案し、改修に着手した。

- ・東京応化財団より助成を受け「三番瀬ラボメンバーズ」を組織。初年度となる2023年度は25名の定員に対し19名が参加。年度中のべ98回の活動を行った。なお、メンバーの中から「千葉県児童生徒・教職員科学作品展・科学論文の部」「全国児童才能開花コンテスト 科学部門」及び「木原記念こども科学賞 高学年の部」で受賞者を輩出することができた。

- ・2024年度以降に全国で使用される小学校教科書(大日本図書『たのしい理科6』、東京書籍『新しい理科6』、啓林館『わくわく理科6』)に、環境について学ぶ施設として、当館の掲載が決まった(大日本図書及び東京書籍については、令和2年度改訂版に続き2回目)。
- ・千葉県教育委員会発行の『海の副読本-マンガで学ぶわたしたちの海-』に、当館職員のインタビューが掲載された。
- ・2023年度の学習館利用者数(特別展、企画展、ワークショップ、アウトリーチなどを含む)は65,661人であったが、これは過去最高の人数である。

## (2) 展示・映像コンテンツの企画・開発及び提供

### ① プラネタリウム番組の企画・制作

- ・神戸市立青少年科学館のプラネタリウム番組として、子供向けに『お月さまのひみつ』を制作した。
- ・一般向けプラネタリウム作品『MMX火星探査計画』を有限会社ライブ、五藤光学研究所と共同で制作した。神戸市立青少年科学館を皮切りに、全国のプラネタリウム施設での上映を予定している。

### ② 巡回展の開発および提供

- ・神戸市立青少年科学館にて実施した企画展「大空に舞え！紙飛行機展」について、企画展終了後、全国の科学館へ巡回展として提供できる展示としてコンテンツ化した。2023年度の成果として、2024年2月あすたむらんど徳島にて「あすたむ航空フェスティバル2024」の1コーナーとしての展示が実現した。また、巡回展で展示している紙飛行機の提供も行い、2023年度の実績としては、富山市科学博物館に提供した。
- ・ふなばし三番瀬環境学習館にて実施した夏期特別展「さいきょう妖怪サバイバル」を巡回展としてコンテンツ化し、提供を開始したところ、あすたむらんど徳島の子ども科学館における2024年夏の特別展として開催されることが決まっている。

## Ⅲ. 収益事業について

### 科学技術普及・利用に係る広報

京都府立大の研究成果である「ダチョウ抗体マスク」、室蘭工業大の研究成果である「Z型パンチャーショベル」を販売した。

以上